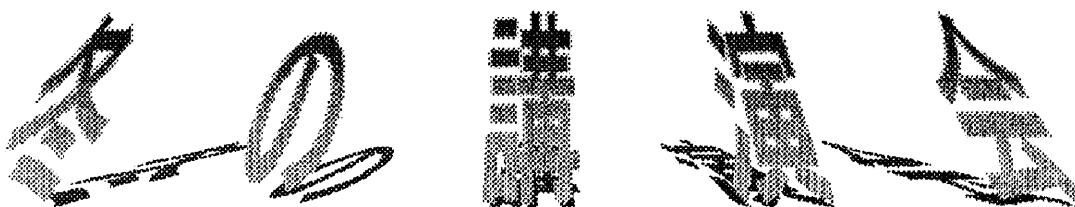


國士館大学地理学会主催



2006年12月16日16:30~17:50

【演題】

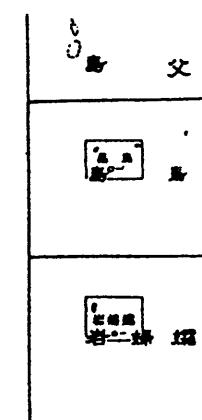
第二次世界大戦中に 日本が作った地図

講師 清水 靖夫先生(本学非常勤講師)

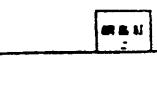
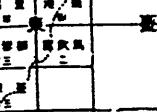
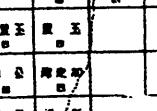
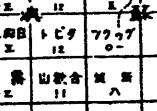
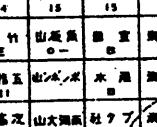
第二次世界大戦中に日本が作った地図

清水清夫

06.12.16.



彭使嶼



昭和十九年 參謀本部

臺灣

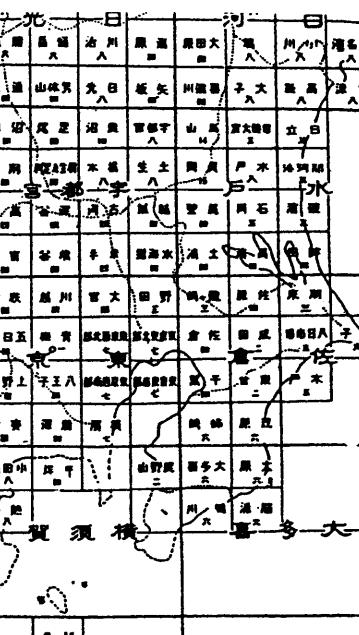
島元子神

島丈八

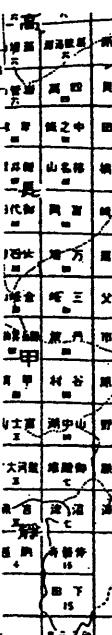
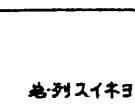
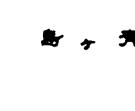
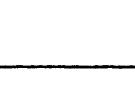
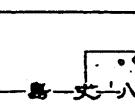
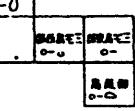
島ヶ青

島喜美須

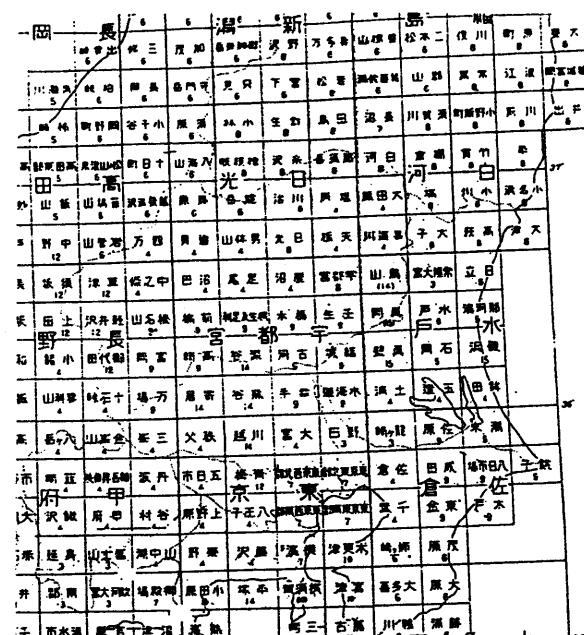
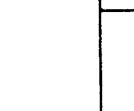
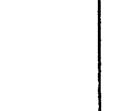
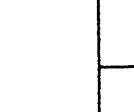
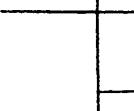
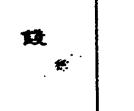
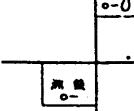
島聲



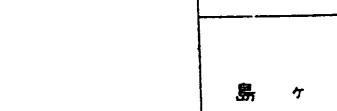
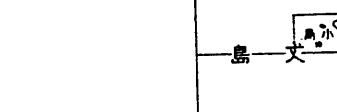
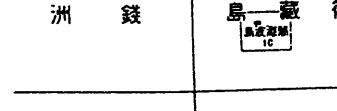
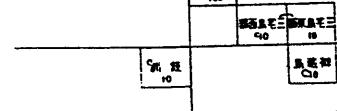
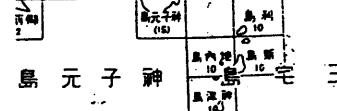
子神



昭和二十年十月 内務省地理調査所



島元子神



第二次世界大戦末期の内邦諸図について

清水靖夫（国士館大学・非）

第二次世界大戦末期の昭和 19・20(1944・45)年、参謀本部、作業は傘下の陸地測量部が、戦地の外邦図作製に躍起となっていた時、内邦図諸図はどのような状況に置かれていたか、残されている諸地図から状況を眺めてみたい。

往時の記録や作業状況を記したものは、ほとんど無く、戦後編集された『測量・地図百年史』上に僅かに記されているのみで、あとは、当時の「地図一覧図」上から読み取る以外、紙上に記録されているものは、現在のところ知られていない。なお外邦図という特定名称は、内邦図の対語として誕生している。

昭和 16(1941)年一般の人々への地形図類の販売が停止された。もっとも教育、土木等必要な向きには、許可証が有れば限定的に購入は可能であったようである。

国土地理院の図歴記録に欠落している地図群がある。いずれも当時陸地測量部の上部機関であった参謀本部作製の地図群である。直接戦闘用と記された地図群であったため、終戦後社会を憚り外邦地域の地図とともに刊行図でもなかったため、あえて外したものと考えられる。

昨年(2004)の研究会で「終戦前後の日本周辺の地形図」として一部発表提示させて頂いた内容は「集成二十万分一帝國図」、「集成五万分一地形図」、「陸海作戦用図」、「陸海編合図」などについてであった。いずれも終戦直前における、日本本土作戦用の地図類であり、以下は現在までの知見の記録である。欠落部分、記録等大方の御教示を賜りたいと願っている。

○集成五万分一地形図

本土作戦用地図、通称を「マルタ」(記号②)と呼んでいた。主として太平洋沿岸に作製されたからであった。地図の特定名称は「集成五万分一地形図」である。その内容は以下に示す通りである。

作製面数: 不詳だが 168 面以上。

作製地域: 津軽海峡から本州太平洋沿岸、瀬戸内

海、九州沿岸。

作製年: 昭和 20(1945)年製版。

作製者: 参謀本部。

体裁: 四六判、1 色刷、1 km の距離方眼が描かれている。

原則として 5 万分 1 地形図 4 面を集成、20 万分 1 帝國図を基準に 5 万分 1 の 1・2・5・6 を 1 号、3・4・7・8 を 2 号、9・10・13・14 を 3 号、11・12・15・16 を 4 号とし、必要に応じて 5 万分 1 を 1 面～3 面を集成したものもある。

本図群は昭和 20 年製版と上述したが、集成された 5 万分 1 は使用目的から当時最新の測量年次の地図を集成したもので、軍事施設等名称がそのまま入っており、戦後の刊行図では名称等を消去してしまったので、記録としても価値が有ろう。参考に神奈川県相模原市付近を図 3 に示した。なお不思議な事に同地域に同じ体裁で同じ軍事極秘扱いの内容の異なる図が存在する事が判った。参考までに図示すると、昭和初期の版で、鉄道等に戦時改描がみられる。当時はほとんどの外邦図作製作業が民間の印刷業者に外注されていたので、この「マルタ」についても同じであり、地図によっては図郭外右下に印刷所のロゴマークが描かれており、地図の陸地測量部からの供給が適切でなかったのかかもしれない。

また、戦後販売された地形図の中で主として太平洋岸に、昭和 19・20(1944・45)年に沿岸部の港湾施設等にあまり上手でない部分修正がみられる。昭和 22～24(1947～49)年の地図一覧図をベースにした「集成五万分 1 地形図」の作製地区一覧図中に、該当する修正図の位置を斜線で示してみた。この部分修正は「集成五万分 1 地形図」のためか、あるいは後述する「陸海作戦用図」のためあるいは、両方の為のものか、修正地域の分布には興味がもてる。「集成五万分 1 地形図」の秘扱いの区分は以下のリストの通りである。秘扱いの区分が示されていないものは、実見していない図である。

○集成二十万分一帝国図

樺太から九州までを「集成五万分一地形図」と同じ形で「集成二十万分一帝国図」が作製されていた。その内容は以下の通りである。

作製面数: 34 面

作製地城: 南樺太～九州、千島列島と南西諸島の島々は作製されていない。

作製年: 昭和 20(1945) 年製版

作製者: 参謀本部

体裁: 四六判ほか、1～3 色刷、1 km の距離方眼が描かれているものと無いものがある。

秘密の取り扱い基準はすべて「部外秘」であり、墨 1 色のほか等高線が緑、茶などがあり、湾入や港湾の沿岸には等深線が部分的に描かれていている。帝国図(現今の地勢図の前身)2～5 面が集成されている。集成されている図幅名は以下の通りである。

集成二十万分一帝国図

(昭和 20 年製版 參謀本部 すべて部外秘)

[号数] [包含される図幅名]

- 1～9 (南樺太、北海道)
- 10 尻屋崎 野辺地 函館 青森 渡島大島
- 11 野辺地 八戸 青森 弘前
- 12 盛岡 一関 秋田 新庄
- 13 石巻 仙台 福島
- 14 白河 水戸 日光 宇都宮
- 15 佐倉 大多喜 東京 横須賀
- 16 村上 新潟 相川 長岡
- 17 高田 長野
- 18 甲府 静岡
- 19 三宅島 御蔵島 御子元島
- 20 珠洲岬 輪島
- 21 富山 高山 七尾 金沢
- 22 飯田 豊橋 岐阜 名古屋
- 23 伊良湖岬 宇治山田 木本
- 24 宮津 京都及大阪 鳥取 姫路
- 25 和歌山 田辺 徳島 劍山
- 26 西郷 松江 大社
- 27 高梁 岡山及丸亀 浜田 広島
- 28 高知 雲川 松山 宇和島
- 29 見島 山口 小串

- 30 中津 大分 小倉 熊本
- 31 延岡 宮崎 八代 鹿児島
- 32 川原 唐津 長崎 福江
- 33 野母崎 飯島 富江
- 34 開聞岳 屋久島 黒島

集成五万分一地形図 [マルタ⑥]

(昭和 20 年製版 參謀本部)

[図名称] / [取扱]	[図名称] / [取扱]
尻屋崎 3号函館 1号/-	京都及大阪 1/-
尻屋崎 4/-	" 2/-
函館 1・3/-	" 3/-
" 2/-	" 4/秘
" 4/-	和歌山 1/-
野辺地 3/軍事極秘	" 2/-
" 4/-	" 3/-
青森 1/軍事極秘	" 4/-
" 2/軍事極秘	田辺 1/秘
" 3/軍事極秘	" 2/秘
" 4/軍事極秘	" 3/秘
八戸 1/軍事秘密	" 4/
" 2/軍事秘密	姫路 2/秘
" 3/軍事秘密	徳島 1/-
" 4/秘	" 2/軍事極秘
盛岡 1/秘	" 3/-
" 2/軍事秘密	" 4/-
" 3/秘	剣山 1/軍事極秘
" 4/秘	" 3/秘
一関 1/-	" 4/秘
" 2/-	岡山及丸亀 1/-
" 3/-	" 2/-
" 4/-	" 3/-
石巻 1・2/軍事秘密	" 4/-
" 3/軍事秘密	高知 1/-
" 4/軍事秘密	" 2/秘
仙台 1/-	" 3/秘
" 2/-	" 4/秘
福島 1/秘	蓬川 3/秘
" 2/秘	広島 1/-
白河 1/秘	" 2/-
" 2/軍事秘密	" 3/-

" 3 / 軍事秘密	" 4 / -	" 3 / 秘	開聞岳 1 東 / 軍事秘密
" 4 / 軍事秘密	松山 1 / -	岐阜 2 / -	" 1 / 軍事秘密
水戸 1 号 / 秘	" 2 / 秘	" 4 / -	" 3 / -
" 2 / 軍事秘密	" 3 / 軍事極秘	名古屋 1 / 軍事秘密	唐津 1 / 軍事極秘
" 3 / 軍事秘密	" 4 / 軍事極秘	" 2 / -	" 2 / 軍事極秘
" 4 / -	宇和島 1 / 秘	" 3 / 秘	唐津 4 長崎 3 / -
佐倉 1 / -	" 2 / 軍事極秘	" 4 / -	長崎 1 / 軍事極秘
" 2 / -	" 3 / -	宇治山田 1 / 軍事秘密	" 3 · 4 / 軍事極秘
" 3 / 軍事秘密	" 4 / 軍事極秘	" 2 / 軍事秘密	野母崎 1 / 軍事極秘
" 4 / 軍事極秘	山口 3 小串 1 / 軍事極秘	" 3 / 秘	福江 1 · 2
大多喜 3 / 軍事極秘	" 4 " 2 / 軍事極秘	" 4 / 秘	長崎 4 福江 2 / 富江 /
日光 2 / -	中津 1 / 軍事極秘	木本 3 / 秘	
宇都宮 1 / -	" 2 号 / 秘		
" 2 / 秘	" 3 / 軍事極秘		
" 3 / 軍事秘密	" 4 / 秘		
" 4 / -	大分 1 / -		
東京 1 / 秘	" 2 / -		
" 2 / 軍事極秘	" 3 / -		
" 3 / 軍事極秘	" 4 / -		
" 4 / 軍事極秘	延岡 1 / 秘		
横須賀 1 / 軍事極秘	" 2 / 秘		
" 2 / 軍事極秘	" 3 / -		
" 3 / -	" 4 / -		
" 4 静岡 2 / 軍事極秘	宮崎 3 / 軍事秘密		
長野 1 / 秘	" 4 / 軍事秘密		
" 2 / 秘	小倉 1 / -		
甲府 1 / 軍事秘密	" 2 / -		
" 2 / 秘	" 3 / -		
" 3 / 秘	" 4 / -		
" 4 / 軍事秘密	熊本 1 / 秘		
静岡 1 / -	" 2 / 秘		
" 3 / -	" 3 / -		
" 4 / -	" 4 / 秘		
御子元島 1 / -	八代 1 / -		
" 3 / -	" 2 / 秘		
飯田 4 / -	" 3 / -		
豊橋 1 / 秘	" 4 / 秘		
" 2 / -	鹿児島 1 / 軍事秘密		
" 3 / -	" 2 / 軍事秘密		
" 4 / -	" 3 / 軍事秘密		
伊良湖岬 1 / -	" 4 / 軍事秘密		

○陸海作戦用図

「陸海作戦用図」は、北海道から九州までの主として平滑な海岸にたいして作製された。国内戦にむけて、敵兵の上陸しやすい平滑な砂浜を含む沿岸一帯に作製されたようである。詳細な記録は未見であるが、以下の通りである。

作製面数: 不詳。

取扱: 陸軍 軍事秘密(戦地に限り極秘)

海軍 軍極秘(戦地に限り用済後焼却)

作製地域: 太平洋岸、東シナ海沿岸。

作製年: 昭和 20(1945) 年作製。

作製者: 参謀本部(陸軍)、軍令部(海軍)。

体裁: 四六判、3 色刷、経緯度 1 分毎の方眼。35 度・41 度のメルカトル図法。

本図群は、陸軍は参謀本部と海軍は軍令部の名前で作製されており、調製者として陸軍は陸地測量部、海軍は水路部の名前になっている。陸地部分は 5 万分 1 地形図に薄い黄色の地色をかけ、水部は水深数字が描き込まれており、等深線も 5,10,20,200m が挿入されている。図郭外上部に「1. 本図ハ陸図ヲ主用セル関係上、地名等ハ右読ナリ、但シ欄外記事ハ左読トス 2. 海部ハ小尺度ノ海図ヲ拡大セルモノナルニ付航海用トシテハ不適当ナリ(原文旧漢字)」とあり、両部内特に陸地測量部主導で作られたようである。外注による作製のロゴはない。「集成五万分一地形図」通称マルタについては、「測量・地図百年史」に簡単な記載はあったが、本図群に関する記載は無く、「日本水路史」中にも全く触れていない。図郭範囲等は以下に示す。

陸海作戦用図

(昭和 20 年作製、参謀本部(陸軍)軍事秘密、軍令部(海軍)軍機密)

[整理番号] / [図名] / [経度] / [緯度] / [图形]

北海道 1:50,000 昭和 20 年 4 月作製 (35° 基準)

其ノ一/十勝附近/143° 29' -144° /42° 39' -57' /横
長

其ノ二/湧洞附近/143° 17' -40' /42° 12' -39' /縦長
其ノ三/襟裳岬附近/143° 04' -27' /41° 45' -42'
12' /"

其ノ四/浜厚真附近/141° 38' -142° 01' /42° 24'
-50' /"

其ノ五/苦小牧附近/141° 15' -29' /42° 24' -50' /"
東北 1:50,000 昭和 20 年 4 月作製 (41° 基準)

其ノ二/三澤附近/141° 05' -30' /40° 34' -41' /縦長
関東 1:100,000 昭和 20 年 3 月作製 (35° 基準)

其ノ二/千葉附近/141° 08' -55' /34° 52' -35° 44' /
縦長

九州 1:50,000 昭和 20 年 3 月作製 (35° 基準)
其ノ五/宮崎附近/131° 18' 14"-40' 30"/31° 49' -32'

16' /縦長

其ノ六/油津附近/131° 14' 30"-35' 48"/31° 22' -49'
/"

其ノ八/鹿児島附近/130° 29' -52' /31° 26' -53' /"

其ノ十/串木野附近/130° 06' -29' /31° 26' -53' /"

○陸海編合図

千島列島から南西諸島まで、太平洋岸の全ての島嶼について、陸上部分を 5 万分 1 地形図で、海洋部分を小縮尺海図を拡大した海図で、島嶼の周辺をの海底の大要が判るように編集されたもの。

昭和 19 年 10 月の内邦地域地図整備目録中に大部分は収録されているが、色丹島、小笠原群島の各島嶼が記載されていない。これらは実際に存在するので、この地図目録完成後に作製されたものと思われる。島嶼の地形図は、海洋部分が大きな地図が多く、一覧するのに不便であるところから地形図数面を接合し、海洋部分を充當したもので、1 色刷で方眼は描かれていない。作製地域は以下に示す通りである。

[図名] [所属島嶼]

幌筵島其 1~5…占守島幌筵島東端 品川島南東部分

阿頬渡島幌筵島北部 品川島中部 品川島南西部

温柵古丹島…温柵古丹島 磨勘留島 帆掛岩 春牟
古丹島

捨子古丹島…捨子古丹島 越渴磨島 知林古丹島
牟知列岩

羅處和島及宇志知島…羅處和島 宇志知島 雷公計
島 松輪島 計吐夷島

新知島其 1・2…新知島北東部 新知島南西部

得撫島其 1~4…得撫島東端部 得撫島中北部武魯頓
島知理保以南北島 得撫島南東部 得撫島南西端

擇捉島其 1~8…擇捉島北東から南西に 8 分割

國後島其 1~4…國後島北東から南西に 4 分割

色丹島…昭和 19 年の一覧図になし [国会図書館所
蔵図あり]

多樂島及志發島…多樂島志發島ほか

伊豆七島…大島 利島 新島 神津島 三宅島 御
藏島 八丈島 青ヶ島 須美壽島 周辺小島

小笠原諸島…昭和 19 年の一覧図になし [個々の島嶼
の地図あり]

大隅列島其 1~3…種子島北部 種子島南部 屋久島
口永良部島

奄美群島其 1~3…奄美大島東部吐口葛口刺諸島喜界
島 大島西部加計呂麻島請島 硫黄島 德之島
與論島

沖縄群島其 1~5…沖縄本島東部 伊平屋諸島 沖縄
本島中部 伊江島 沖縄本島南部 久米島慶良間
列島

南大東島…北大東島 南大東島 沖大東島
先島群島其 1~3…宮古島 伊良部島 魚釣島 石垣
島 多良間島 西表島 與那國島

○兵用集成図

戦場となる可能性のある島嶼の一覧の為、千島列島、小笠原群島の島々の 5 万分 1 を 10 万分 1 に縮小集成したもの。沖縄の島々については、さらに 20 万分 1 を集成している。この集成図については以下に示した。

陸海編合図

(1:50,000 昭和 19 年製版ほか 参謀本部軍事秘密)

集成図

(昭和 19 年製版ほか 参謀本部軍事秘密)

[地域]	[縮尺]
千島列島北部	1:100,000
千島列島中部	1:100,000
千島列島南部	1:100,000
小笠原群島	1:50,000
南西諸島兵用地誌資料図其ノ一	全体図 1:1,000,000
南西諸島兵用地誌資料図其ノ二	各島嶼 1:200,000

はじめに記したが、今回紹介した諸図は、外邦図と同じくわが国の地図史のなかで從来記されていなかつた地図群であった。仮に負の遺産的な要素を含んでいたとしても、直接触れなかったが、歴史の流れの中で、また技術史のなかで大きな役割を果たし、戦後の発展の萌芽も見る事ができよう。なんとか全貌をつかみたいものである。

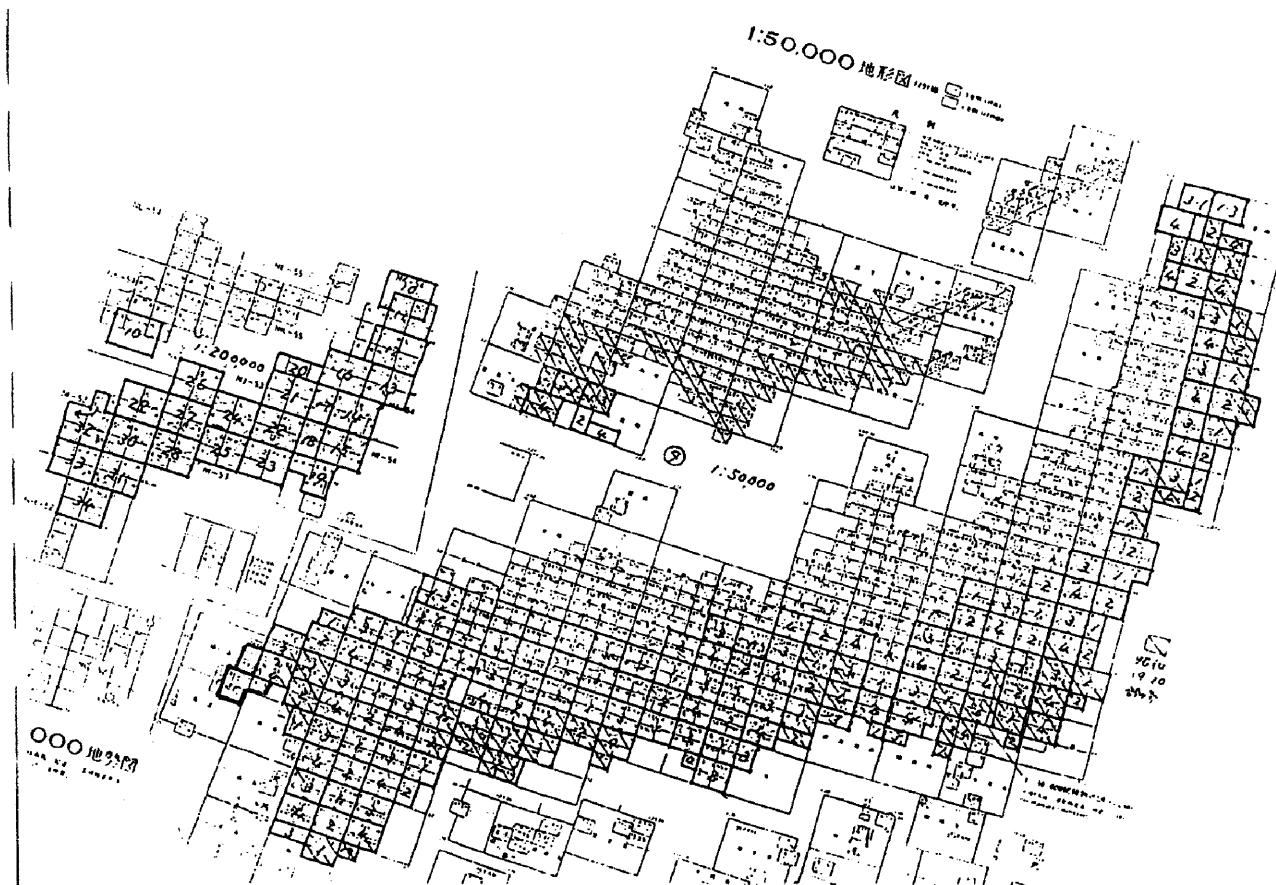


図 1 本土作戦用地図、通称「マルタ」集成五万分一地形図 集成二十万分一帝国図作製範囲

※左上から右下への斜線は昭和 19・20 (1944・45) 年部分修正が行なわれた図幅。

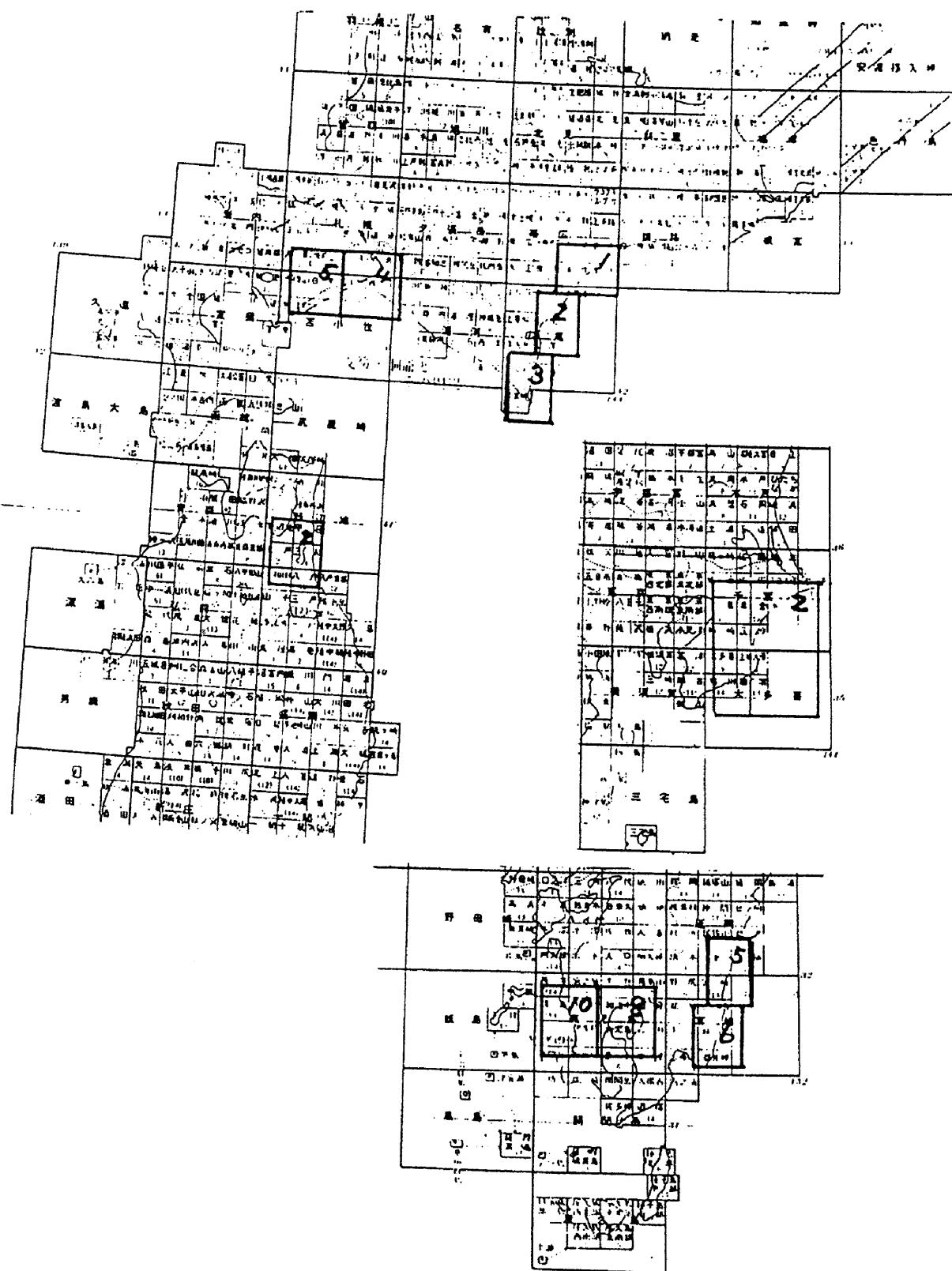


図 2 陸海作戦用図作製位置の例

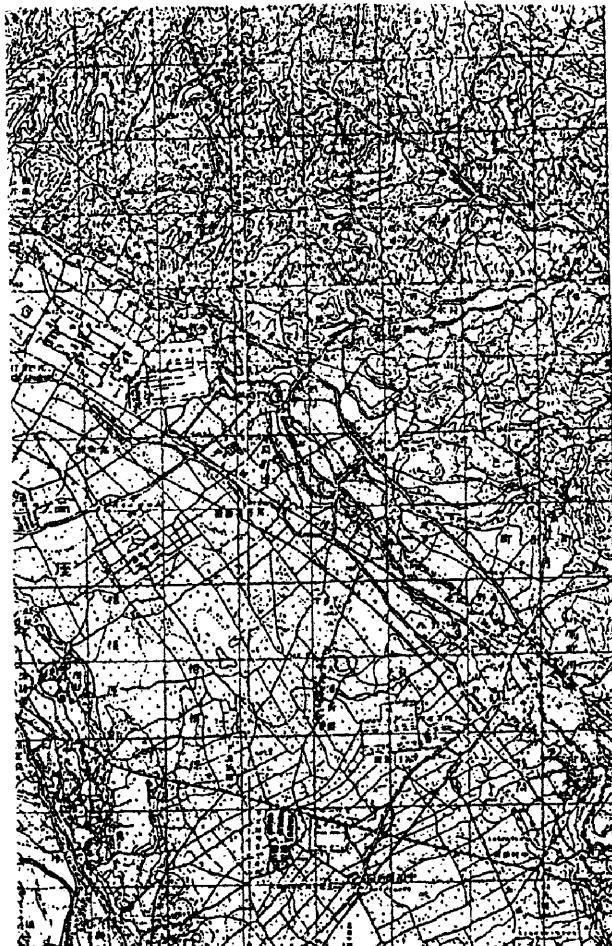


図3-1 集成五万分一地形図東京4号

※昭和20年製版（右上部分：八王子に相当）。軍事施設の入っているもの。原図を50%縮小。

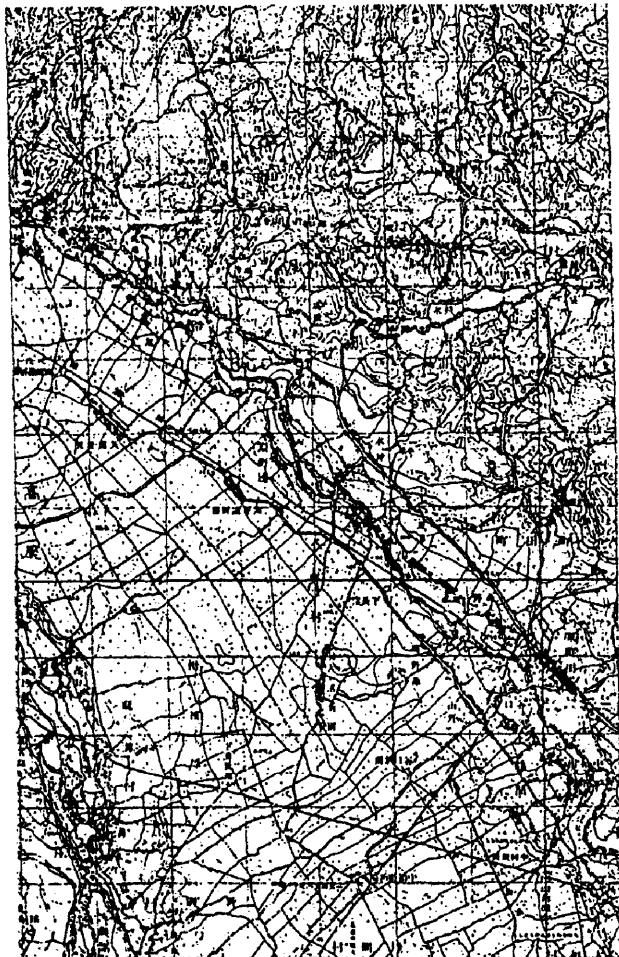


図3-2 集成五万分一地形図東京4号

※昭和20年製版（右上部分：3-1と同位置）。内容の古く戦時改描も施された図使用。原図を50%縮小。

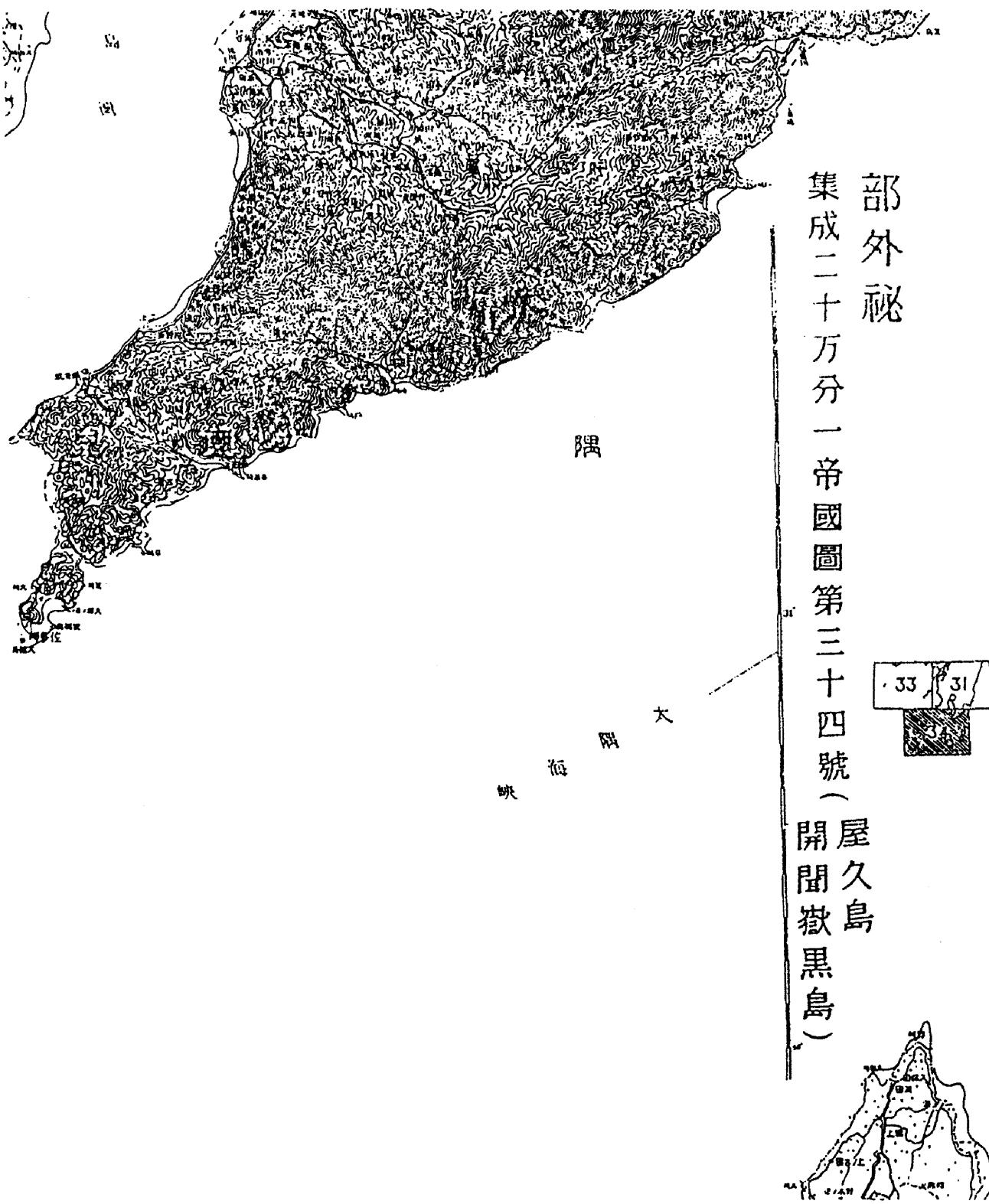


図4 集成二十万分一帝國圖第三十四号（部分）

※なお本図中には当時未測の硫黄島、竹島は破線で描かれている。原図を80%縮小。

參 謀 本 部
軍 令 部
(昭和20年3月作製)

陸海作戦用圖(關東)二 十万分一 (35)

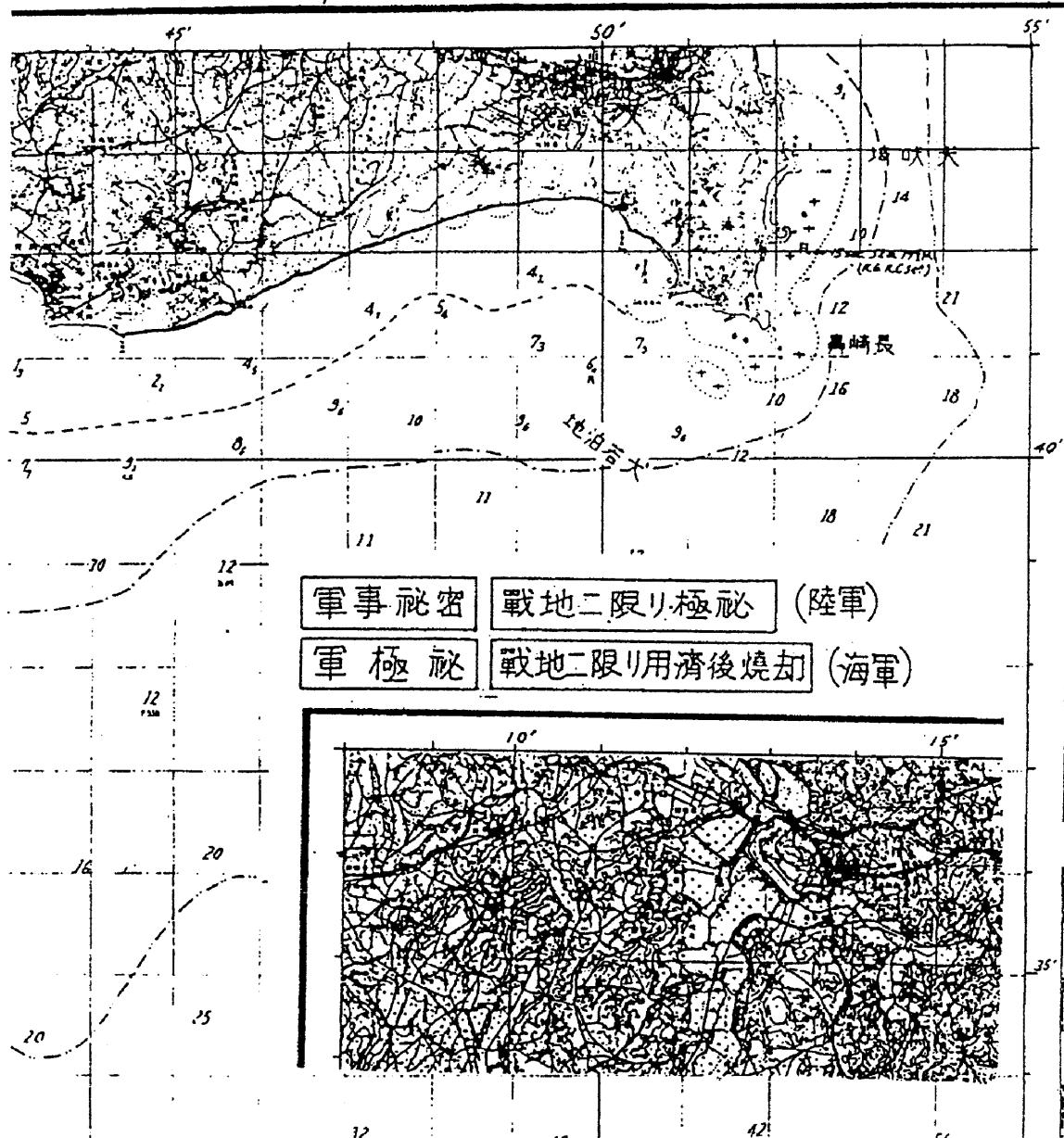
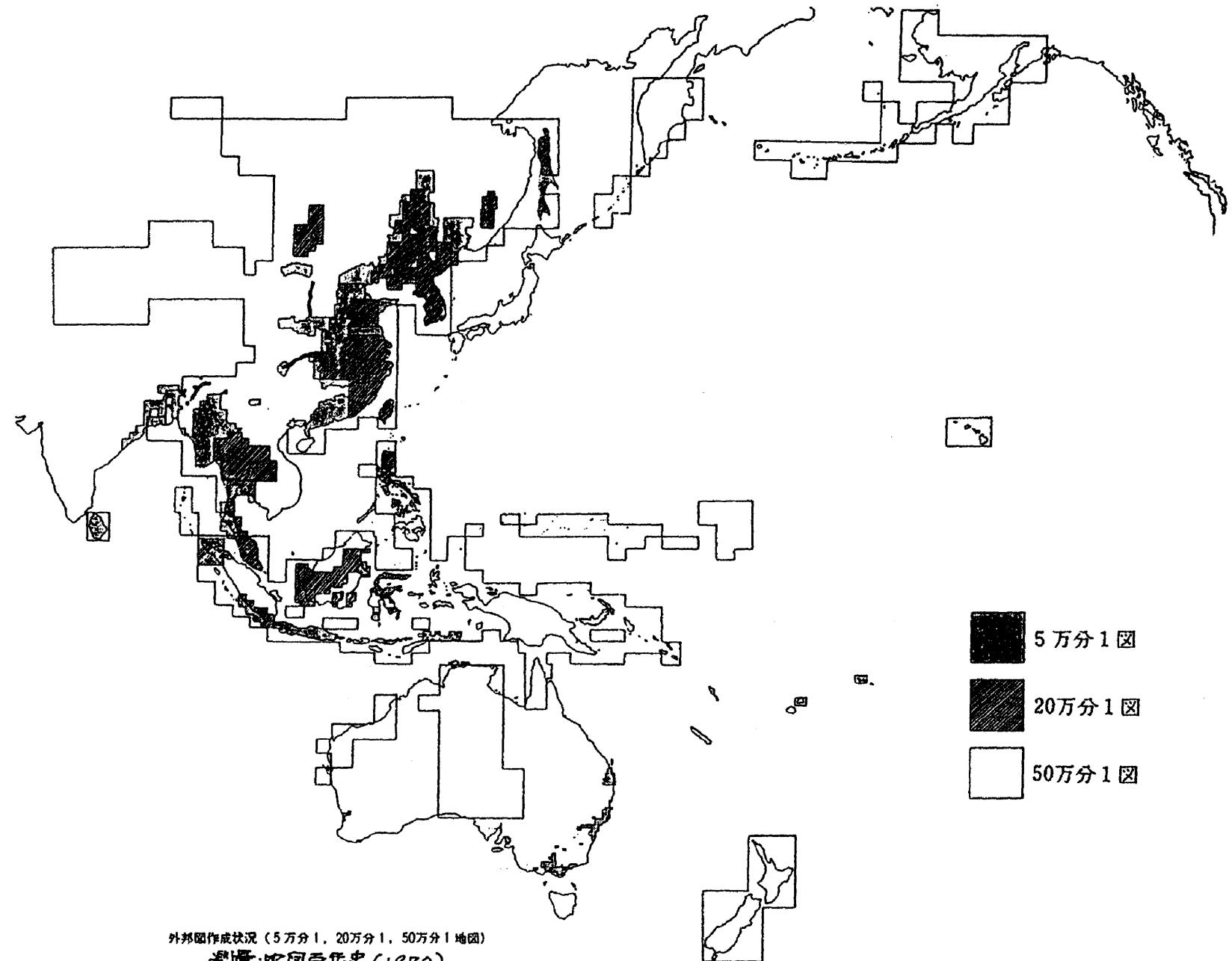
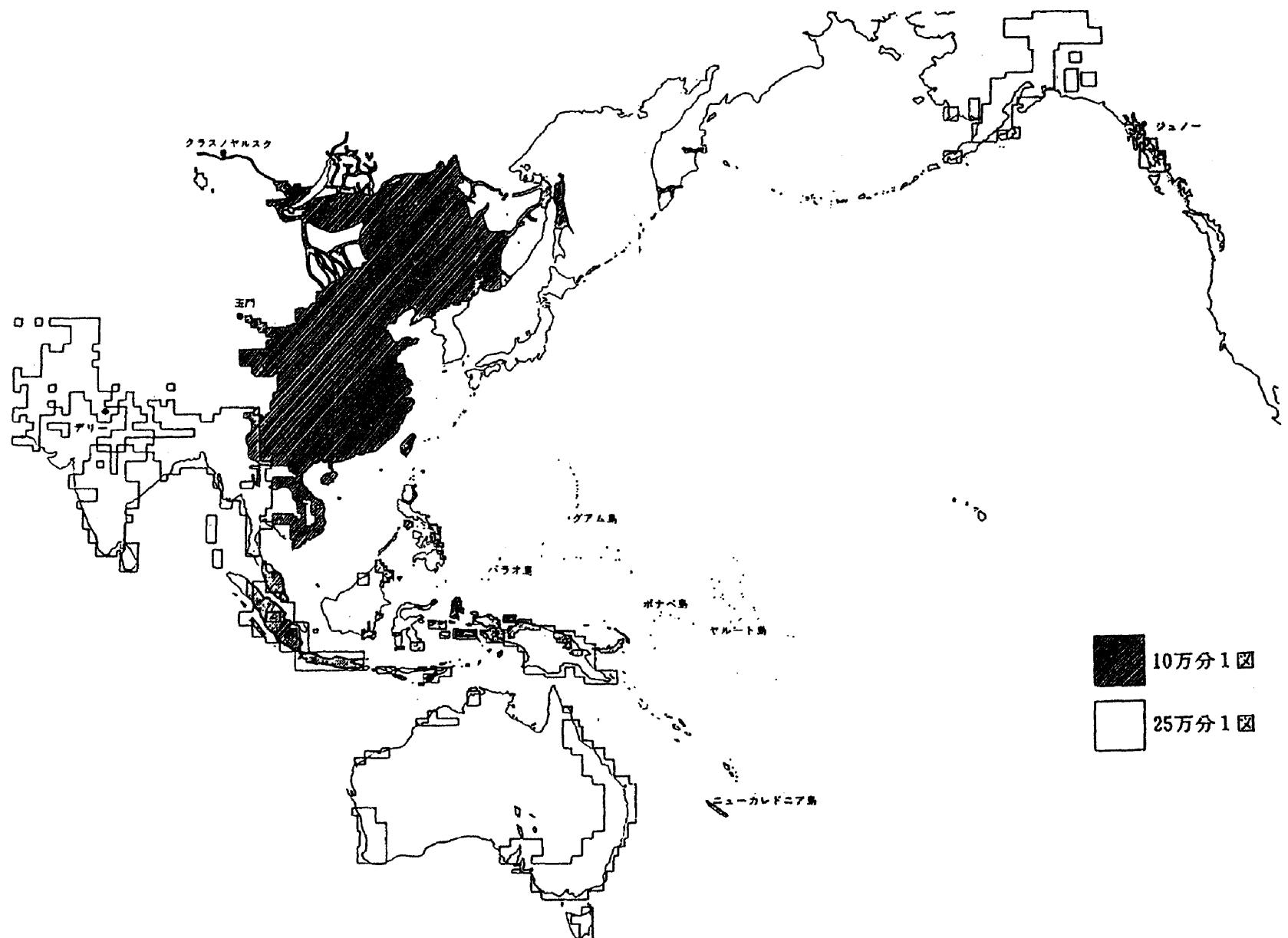


図5 陸海作戦用圖關東其ノ二 1:100,000 千葉附近 (部分)

*原図を80%縮小。





外邦図作成状況(10万分1、25万分1地図)
測量地図百年史(1970)

第1次大戦中の地形図類



清水 靖夫

東京でも大阪でも本屋の地図コーナーには地図があふれている。ちょっと大きな書店なら地形図類も購入できる。当たり前のようにだが、60年余り前、不用意に地形図類を持ち歩いていると、防諜関係の官憲に逮捕されかねない時代もあった。地理・地図関係者にとって、今は有難い時代である。尤も現在でも一般人が地形図類を自由にできない国もある。

過去に、世界の多くの国々で、地形図類の作成機関は陸軍であった。日本も参謀本部傘下の陸地測量部が地形図類を作成していた、国土地理院の前身である。軍部が関わったのには、国土の防衛という名分と測量・地図作成に多額の費用がかかるということから、通常の官庁では経費の予算化に無理があったためとも言われている。

地形図作成当初の頃から、要塞・軍事施設等については、記載に制限が加えられており、発売禁止地域があった。昭和12（1937）年日中戦争前頃には、通常の図幅内で、軍事施設・運輸流通施設等の表現には、規制が加えられるようになった。軍機保護法による戦時改描である。太平洋戦争が始まると同時にこの規制は一層厳しくなり、ついに

昭和16（1941）年には地形図類の一般への販売が禁止された。

国内の地形図類ばかりでなく、国外（主権の及ばない地域）の地形図の作成や複製についても、秘密裏に

図1 1:3,000,000汎太平洋輿地図37号、極秘「數香一ハバロフスクー黒河」、昭和18年春版・印刷、陸地測量部参謀本部 ×0.7

太平洋沿岸を作成、軍事用を含め飛行場（赤丸）の全てが網羅されている。太平洋沿岸域には1:700,000～1:3,000,000の航空図を作成した。



図2 シンガポール（シンガポール）、秘1:50,000馬来ジョホール州 No.3、3L/12
SINGAPORE & JOHORE BAHRU ×0.7

備考に、本図ハ1926年、馬来連邦及海峡植民地測量局63,360分1多色刷図ヲ5万分1ニ伸写シ5色ニ応急複製セルモノナリとあり、作成期日と作成者は、昭和17年8月製版陸地測量部、同17年8月発行 参謀本部、とある。イギリス領のマレー半島とシンガポールは、イギリスにとって東アジア進出の拠点であった。

行なわれていった。国外（外邦）の地形図類（外邦図：以下この呼称）の作成については、すでに明治17（1884）年参謀本部測量局服務概則に早くも記されている。外邦図は、軍事戦略的な要素が濃く、アメリカ合衆国、イギリス（連合王国）

のGSGS等でも、ほぼ世界の地形図を複製していた。日本での外邦図作成は、特にアジア地域に重点が置かれたが、小縮尺図は一部ヨーロッパ等まで及んでいた。どのような外邦図をどの地域に作成させたかについては、表向いての主権の及ばない地域

であったため、陸地測量部の正史ともいえる「陸地測量部沿革誌」には、明治期の外邦図の記録が若干ある他は記載されていない。戦後だが唯一といつてよい記録は、昭和45（1970）年の国土地理院監修「測量・地図百年史」（日本測量協会発行）中に外邦図作成の簡単な記録とその範囲が図示されているのみであった。

近年、大阪大学の小林茂教授を中心とする研究グループの努力によってようやく詳細が明らかにされた。

外邦図中の比較的縮尺の大きな地形図類は、旧内邦であった樺太、朝鮮半島、台湾の日本による測量・図化は勿論だが、既に地形図類の完成していたアジア地域の各国の既製地形図類（多くは植民地宗主国が作成した多色刷り地形図）では、読図に支障の少ないぎりぎりまで色数を削減し、1~6色の色彩を用いた印刷を行なっている。また縮尺も10進法によらない縮尺、例えば1 Inch to 1 Mile (=1:63,360) 図などを1:50,000に伸図するなど使いやすいものに変えている。

また戦場になる可能性のある地域で地形図類の未完成地域では、空中写真からの図化による地形図も多数作られた。必要に応じて地形図として表現できない情報は、文字によるコメントが記入された物も少なくない。

太平洋戦争の後半期に入り、日本の戦況に翳りが見えはじめ、多くの都市が爆撃に晒されるようになり、本土で



図3 バタヴィア北東部（インドネシア）、秘1:50,000ジャワ島53号、Blad 37 / XXXVII A TANJOENGPRIOK ×0.7

備考に、本図ハ1938年旧蘭印測量局調製5万分1 8色刷図4色ニ複製セルモノナリとあり、民間印刷業者のロゴが入っている（二重丸のなかに大）。昭和18年5月製版 陸地測量部、同18年5月発行 参謀本部。

バタヴィアは現在のジャカルタ、オランダ領東インド会社以来のアジア地域経営の拠点、図は市街北東部と外港。

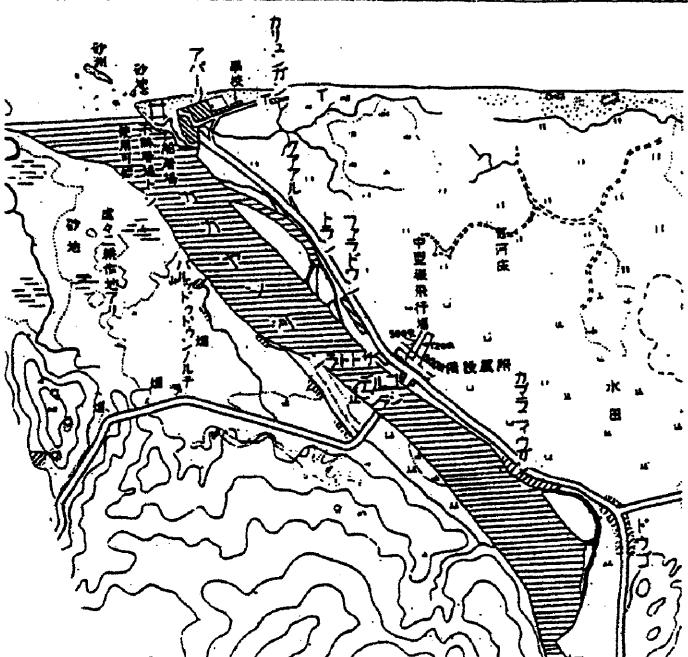


図4 アパーイと周辺（フィリピン）、軍事秘密（戦地ニ限り極密）、要図（空中写真測量）、呂宋島10万分1 2号アパーイ ×0.7

備考に、本図ハ約36.370分1 空中写真ヲ下志津飛行学校ニ於テ図化セルモノヲ清絵シ10万分1ニ縮図セルモノナリ

昭和16年11月製版 陸地測量部、同16年11月発行 参謀本部。

フィリピン北東端カガヤン河の河口部、太平洋戦争開戦直前の作成圖であり、ルソン島は当時内邦であった台湾のすぐ南の島である。地形図が入手できなかったか、未作成の地域は直接測図している。

の戦闘も考えられるようになるとその為の地形図類の作成が行なわれた。

千島列島から沖縄にいたる太平洋側の全ての島々を対象に、地形図に海図を組み合わせた「陸海編合図」を、昭和19（1944）年（一部20年）に作成。昭和20（1945）年に入ると、戦略用に20分1帝國図の2乃至4図幅を集成、さらに太平洋側の5万分1地形図を原則4図幅を集成し、1km方眼を加えて太平洋側の現地作戦用に「集成帝國図」、「集成地形図」を作成、太平洋の「タ」を○で囲み通称マルタ②と称した。

アメリカ軍の上陸に備え太平洋側の砂浜海岸には、「陸海作戦用図」として、1:50,000あるいは1:100,000の地形図のこれも海側に海図を加えた地形図が作成された。これら地形図類の大部分は8月15日の敗戦詔勅前後にアメリカを含む連合軍の手に渡るのをおそれ焼却処分の命令が出された。

陸地測量部は陸軍の施設ということで解体されたが、9月1日付で、内務省に地理調査所が設置された。國土地理院の直接の前身である。当初、地理調査所は米軍（連合軍）の命令による作業で忙殺されたようである。一方米軍は終戦後間もなく新宿の伊勢丹を接收し、米軍地図局（AMS）の業務を開始している、地図局はやがて王子に移り、そして国外に移転していった。

昭和21（1946）年地理調査所は、1:50,000地形図等の販売を再開した。当初は陸地測量部時代の旧在庫品や、大戦中以来の民間印刷業者に依頼した旧版からの应急印刷図などが販売されたが、一部の都市では占領軍（米軍）が撮影した空中写真等を用い、昭和22（1947）年から修正測量が開始され、名古屋や大阪では戦争による罹災地域の家屋を消去し空白で表わしたものもあった。

昭和23（1948）年から、当時基本図であった1:50,000地形図が第二次大戦による影響でほとんどが修正されず10年あるいはそれ以上の旧態のままであったため、空中写真等により、当初は変化のあった部分を茶色で加工、まもなく製図製版技術の向上により加

図5 戦時改描図、5万分1地形図東京10号 青梅、昭和12年修正測図之縮図、昭和17年7月30日発行 陸地測量部 ×0.7

軍事施設、運輸流通施設を改描した。なお記号欄の軍事関係記号を陸海軍官銜と一つの記号に統一、地図の値段を丸括弧「(○○錢)」で囲んである。

5-1 村山・山口貯水池 水面を芝地（芝生）にし、貯水池の堰堤を等高線に改描してある。

5-2 立川飛行場付近 飛行場を畠や荒れ地とし、周辺の施設を一般の家屋の様に改描、鉄道を全て単線化し、鉄橋削除、交差を平面化、側線や引き込み線を消去してある。



図6 マルタ②の5万分1、軍事秘密（戦地二限り極秘）、集成5万分1地形図 東京第4号、昭和20年製版 参謀本部 ×0.7

本図は5万分1地形図の八王子、藤沢、上野原、秦野の4面を集成し1kmの方眼を加えたもの。太平洋側（場所によっては分水嶺付近まで）に現地（本土）作戦用に作成したもの。

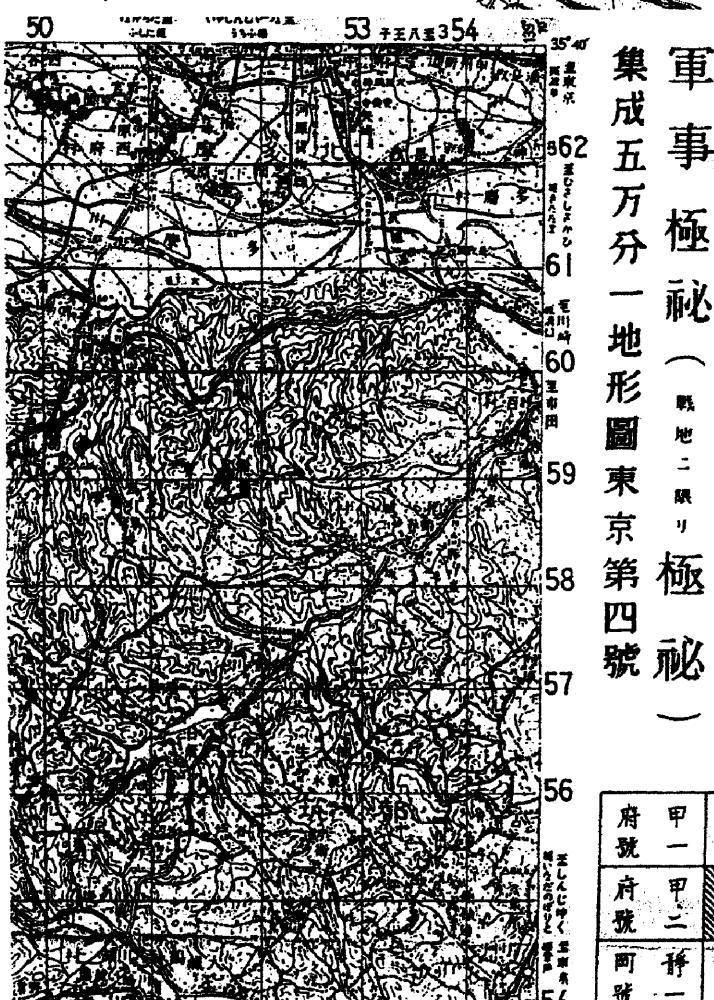
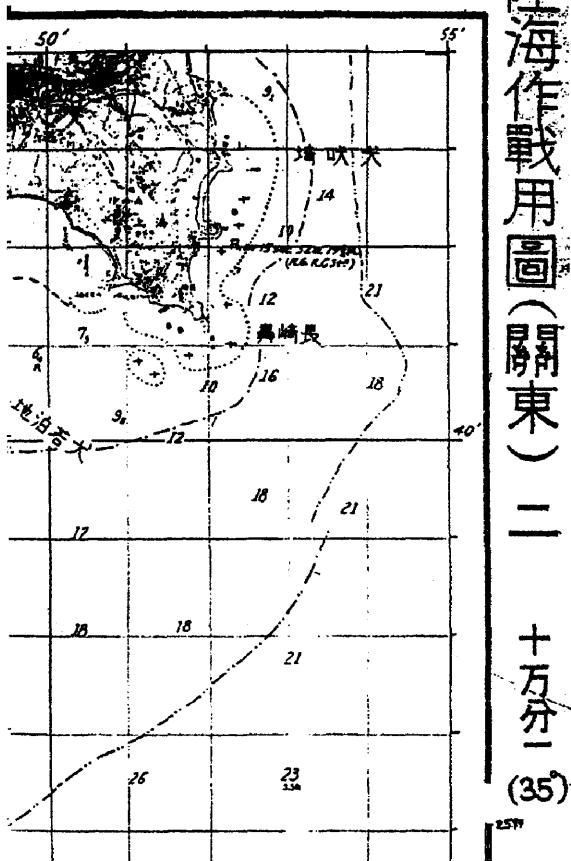


図7 陸海軍作戦用図 九十九里浜付近、陸軍:軍事秘密（戦地ニ限り極秘）、海軍:軍極秘（戦地ニ限り用済後焼却）、関東二（10万分:1 35°） X0.7

地形図の海側に小縮尺の海図の水深を加えたもの。太平洋側の平滑な海岸に作成された。連台軍の上陸に備えた現地作戦用の地形図、関東以外は5万分1で作成されている。

参謀本部
軍令部
(昭和20年3月作製)



刷に拠らないで「応急修正」が、北海道を除く全国の図幅に行なわれた。この応急修正により、戦災の被害のあった中小都市のいくつかには、戦災地域を表示した地形図も発行された。

やがて、高度成長の時代に入り、地図作成等技術も著しく進歩が見られるようになる。昭和35（1960）年地理調査所は国土地理院と改称している。

（国土館大学非常勤講師）

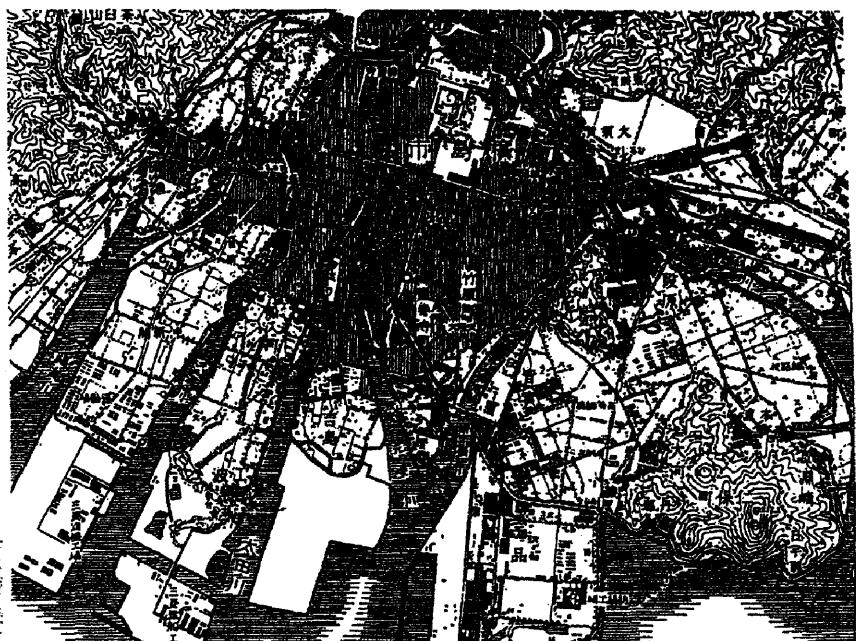


図8 地形図上での戦災地域 広島、5万分1地形図応急修正版 広島、昭和24年応急修正、昭和26年9月30日発行 地理調査所 X0.7

地形図の応急修正にあたり、地方事務所とともに、戦災地域を縦線で示す記号が作られた。ただし、罹災都市の全てが表現されてはいない。

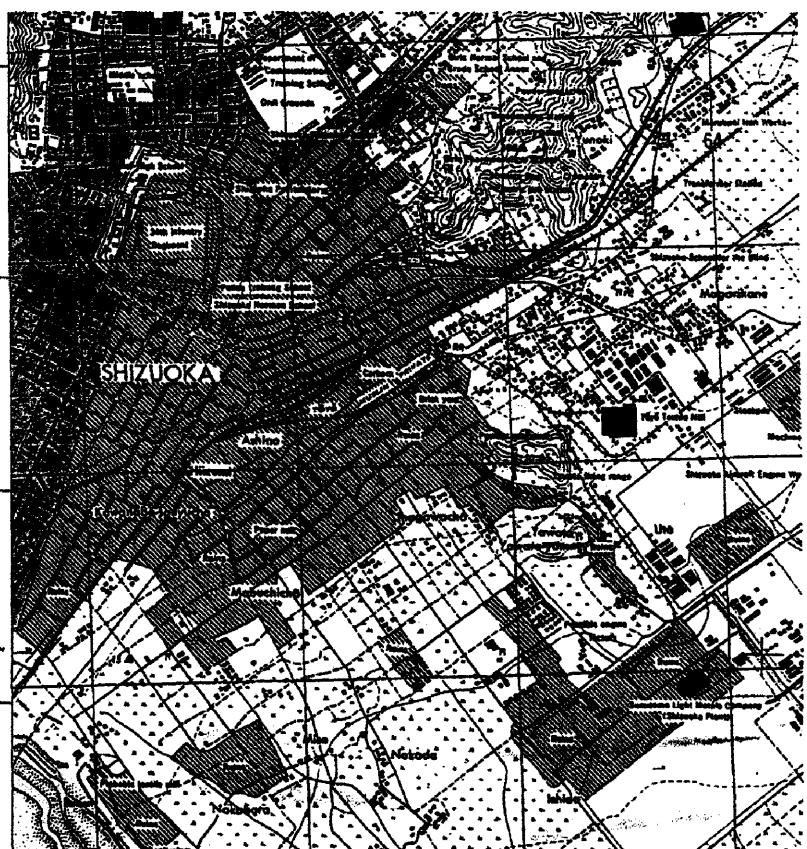


図9 AMS作成地形図上の戦災地域 SHEET 5751 I NE SHIZUOKA NE Third Edition - AMS (FEC) 4/52 X0.7

米軍地図局が、日本の1:25,000地形図を基図に作成した日本国内の地形図、2万5千分1地形図 静岡東部に該当。この図では、市街地南東部のほぼ半分と工場群 (Sumitomo Light Metals) に、黒の左上一右下斜線が引かれ「Ruins」と注記され、戦災焼失区域が示されている。